

新崎盛暉平和活動奨励基金 助成金採択者

1. 2017 年度助成金採択者（第 1 期）

・宮城秋乃さん

「東村高江・国頭村安波の生物調査」

沖縄県うるま市浜比嘉島出身。「アキノ隊員」として沖縄の森林性のチョウを研究。2011 年 9 月より高江の昆虫類を調査。高江で準絶滅危惧種であるリュウキュウウラボシシジミやリュウキュウナミジャノメが多産していることを確認した他、新種のカニムシや希少なゴミムシを発見。当研究を通して、基地建設の沖縄自然環境への影響を伝えている。
(助成金 400,000 円)

・河村雅美さん

The Informed-Public Project (IPP) 代表。IPP は沖縄をベースにした調査団体で、主に米軍基地汚染の環境問題に取り組む。情報公開制度等を駆使した調査報道的なアプローチを用いる。具体的なケースから、日米沖の現実的なポリティクス、問題解決者としての当事者性がない自治体のカルチャーの問題などの構造的な問題をあぶりだすことに主眼を置いている。

(助成金 300,000 円)

2. 2018 年度助成金採択者（第 2 期）

・渡嘉敷健さん

「沖縄県内における米軍航空機騒音の測定及び解析」

琉球大学工学部准教授。2017 年 12 月に米軍の部品カバーが落下した宜野湾市野嵩の緑ヶ丘保育園の屋上に騒音測定器を設置し、米軍の飛行ルート外にある同園の騒音環境や米軍機の飛行実態を明らかにすることで原因究明に繋げる。

(助成金 300,000 円)

・金閭愛（キム ウネ）さん

「演劇集団「創造」を中心とする戦後沖縄文化運動史の研究」

東京外国語大学 国際日本研究センター 特定専門員。90 年代の韓国における民主化運動に際し民衆歌謡の果たした役割、その歴史的展開について研究を進め、東アジアの文化運動に関する比較史、韓国と共通した経験を有する戦後沖縄の文化運動について調査研究を行っている。劇団「創造」で多くの脚本を執筆し演出を担った知念正真の著作活動の体系的な復元を通して戦後沖縄の歩み、文化活動の普遍的意義を国際的に発信する。

(助成金 400,000 円)

3. 2019 年度助成金採択者（第 3 期）

・北上田毅さん（顕彰）

土木技師。沖縄防衛局や県警などへの情報公開請求を続け、辺野古ゲート前の警備費や

辺野古新基地建設予定地における軟弱地盤などの問題点を指摘。警備費については会計検査院も過大積算を指摘し、軟弱地盤問題は沖縄県の埋立承認撤回の最大理由となった。
(助成金 500,000 円)

4. 2020 年度助成金採択者 (第 4 期)

・生活協同組合コープおきなわ

「地域住民が主体となった戦争体験者への聞き取り、次世代へ継承する活動」

戦前、戦中戦後の衣食住など、生活者の視点で地域の人びとの沖縄戦体験の聞き取り調査を行い、戦前から戦後の暮らしと沖縄戦を連続性で捉え、次世代への継承に繋がる可能性を見いだせる。

(助成金 310,000 円)

5. 2021 年度助成金採択者 (第 5 期)

・吉川秀樹さん

吉川氏は、自身の専門分野である文化人類学の知見を、研究のみならず市民運動の中で活かす取り組みを長年にわたり実践されてきた。とりわけ、辺野古新基地建設にかかる環境問題、特にジュゴン訴訟を通して国際社会とのネットワーク構築に尽力し、国内外に広く環境正義の問題として提起してきた功績は大きく、市民グループにおける調査活動をけん引し、「島ぐるみ会議」の訪米行動への取り組み、国際、国連機関へのアプローチなど多角的な活動が支持された結果、推薦者らからの推薦になったものと考え、助成採択する。

(助成金 500,000 円)

・宮城秋乃さん

「北部訓練場返還地の米軍廃棄物調査」

前回採択 (2017 年第 1 期) 後、活動を進めていく中で生じた新たな課題、活動内容での申請となった。加えて、2021 年 6 月 4 日に沖縄県警による威力業務妨害での家宅捜索を受け、調査活動機材等の押収により、調査研究活動に支障をきたしている。宮城さんへの家宅捜索は、平和的市民活動への国家権力による妨害行為とも受け取れ、当基金が目的とする沖縄の平和と人権を守るための創造的実践活動を阻害するものと考え、今期助成採択する。

(助成金 200,000 円) ※前回採択の「追加助成」とする。